

社会的な話題や即興の場面で自分の考えを伝える生徒の育成を目指して

羽後町立羽後中学校 教諭 佐藤 康之輔

1. はじめに

本校は、令和3年4月から令和4年3月までの1年間、拠点校・協力校英語授業改善事業の指定を受け、研究と授業改善に取り組んできた。本稿では、拠点校・協力校英語授業改善事業での実践をもとに、「社会的な話題や即興の場面で自分の考えを伝える生徒の育成」につながる実践例を紹介したいと思う。

2. 本校生徒の課題

拠点校・協力校英語授業改善事業では生徒の即興の場面で会話をする力を伸ばすことに重点を置いている。令和3年度の6月にアンケートを実施した結果、「即興で話すことが得意」と答えた生徒の割合は1年生25%、2年生22%、3年生17%となった。また、「根拠や理由、具体例を付けて自分の考えを伝えることができている」では、5段階評価（5：とてもよくできている、4：できている、3：どちらとも言えない、2：あまりできていない、1：できていない）で1年生3.03、2年生2.61、3年生3.45となり全体の71%が否定的な回答であったことから、本校の課題だと捉えた。

そこで、本校の授業改善の視点として、①即興で話す力を向上させる指導方法の工夫、②説得力のある話し方や内容に深まりのある話し方が定着するような指導方法の工夫、③さまざまな話題、形式でのスピーキングテストとライティングテストの実施を重点とすることとした。

3. 拠点校・協力校英語授業改善事業で行った「即興で話す力を向上させる指導方法」

① 毎時間授業の始まりの5～10分程度で行うSmall Talk

進め方は次の通り。ペアで対話 → 中間評価 → ペアを替えて対話

身近な話題での対話に慣れてくると社会的な話題になっても、知っている知識で会話をつなげようとする生徒が増えた。以下は実際の対話例である。

指導過程

身近な話題	<ul style="list-style-type: none">・ What did you do yesterday?・ What will you do this weekend?・ What can you enjoy in summer?
教科書に関する話題	<ul style="list-style-type: none">・ Do you want to live with robots?・ What country do you want to visit?・ Do you think students can bring their smartphones to school?・ Are you prepared for a disaster?・ What can you do to help foreign people living in Ugo Town?

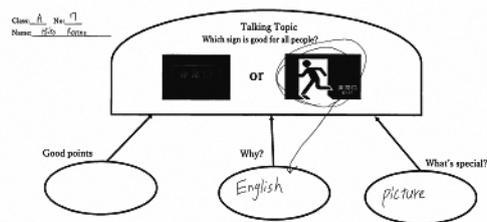
S1: Are you prepared for a disaster?
S2: Yes.
S1: What do you do?
S2: I store food and water. And I know where the local shelter is.



Small Talkの様子

② 考えをキーワードで整理させるための思考ツール

クラゲチャート等の思考ツールを用いて、自分の考えをキーワードで整理させてから会話をさせた。思考ツールを活動の最初に書かせるだけでなく、繰り返し使用したり見直したりすることで気づきが広がったり考えが深まったりするように意識した。



クラゲチャート例

③ 教師側からの情報提示を最小限にし、生徒が質問することで必要な情報を得る場面設定

生徒が説得力のある会話をするためには、教師側からの情報提示を最小限にし、生徒が質問をしなければ必要な情報が得られないような場面設定をする必要があると考えた。

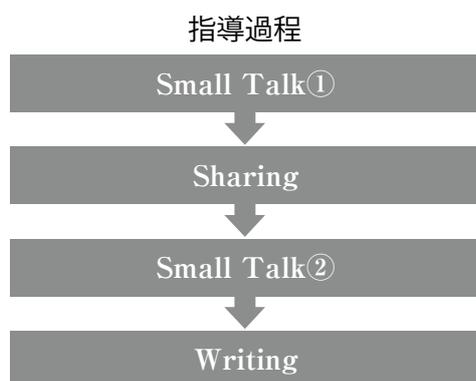
拠点校・協力校英語授業改善事業の研究授業では、「ALTの家族が来日することになり、来日するのに一番適した季節を提案する」ことを活動のゴールとした。以下は、生徒とALTの実際のやり取りである。

S : I think summer is good.
 ALT: Oh, summer is good. Nice. Why do you think so?
 S : It's because they (=ALT's family) can see the sea.
 ALT: Oh, they can see the sea. What is special about the sea?
 S : They can enjoy eating Japanese seafood.
 ALT: What seafood can they eat?
 S : Please try eating raw fish.
 ALT: Oh, raw fish like sushi. Do you enjoy eating raw fish?
 S : Yes.

生徒たちは教科書で日本の寿司とカリフォルニアロールの違いを学習しているので、それを踏まえて「日本の海産物を食べてほしい」というアドバイスである。ALTからの切り返しの発問にも根拠をもって答えようとする姿勢が見られた。

④ 書いてまとめて情報を整理

考えをまとめるために話した内容について作文をする時間を設定した。書いてまとめることで情報を整理し、伝える情報の順番や理由、根拠を強化することができた。身近な話題だけでなく



社会的な話題についても会話をさせて、言えなかったことをクラス全員で共有し、もう一度ペアを替えて会話し、話した内容を書かせるという過程を大切にしました。

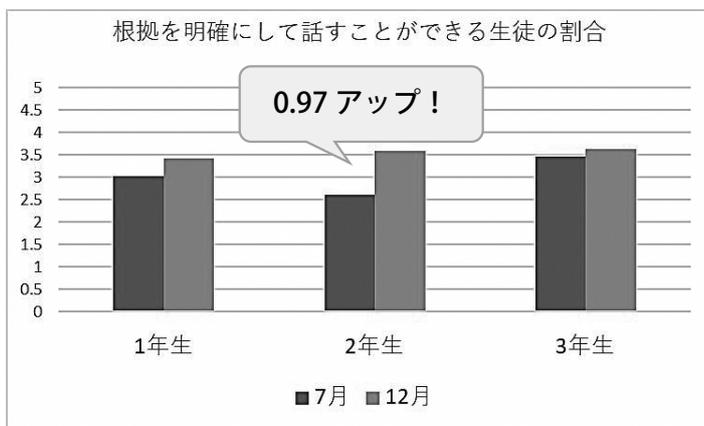
指導過程をまとめると左図のようになる。授業で積み重ねたSmall Talkや作文が単元末のパフォーマンステストにつながるようにバックワードデザインに基づいた単元構想を練った。ゴールの姿を単元の始めに生徒と共有を図り目的意識をもたせることで、生徒が見通しをもって授業へ取り組めるようになったと思われる。

4. パフォーマンステスト

上記で述べてきた指導過程を生かしたパフォーマンステストも様々行ってきた。

スピーキングテスト例	ライティングテスト例
<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのやり取り ・情報を引き出しながら助言する ・ALTへの自己紹介 ・プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・エッセイライティング ・Picture Description イラストの中の人物の状況を説明 ・条件付き英作文

授業中にはなかなか発言できない生徒も、ALTとの1対1の会話では自分の考えを伝えることができる生徒もあり、授業で取り扱った話題を再度パフォーマンステストでも扱くと、授業前後の生徒の変容を見ることができた。指導前後の生徒の変容は以下の通りである。



話したことを書いてまとめる指導を継続した結果、県の学習状況調査のまとまりのある文章を書く問題の通過率が県平均を上回った。様々な話題について話した経験が、初めて見る話題であっても、自分のもっている知識や、知っている表現で言い換えしようという姿勢につながったと考えられる。

5. 令和4年度の挑戦

令和4年度は、5つのR、①Reading for Comprehension ②Reading aloud ③Retelling the Story ④Text Reconstruction ⑤Revision を継続して指導している。

① Reading for Comprehension	オーラルイントロダクション、T or F
② Reading aloud	文字と音のつながり、文強勢、ピッチ、イントネーションなどを意識して音読
③ Retelling the Story	マッピングシート(*1)にメモ→ペアで対話→メモ推敲→ペアで対話
④ Text Reconstruction	③を活用して本文を再構成 →ALTからCorrective Feedback
⑤ Revision	ALTからのFeedbackを参考にして書き直す(*2)

※*1と*2については、HPに実践例を掲載

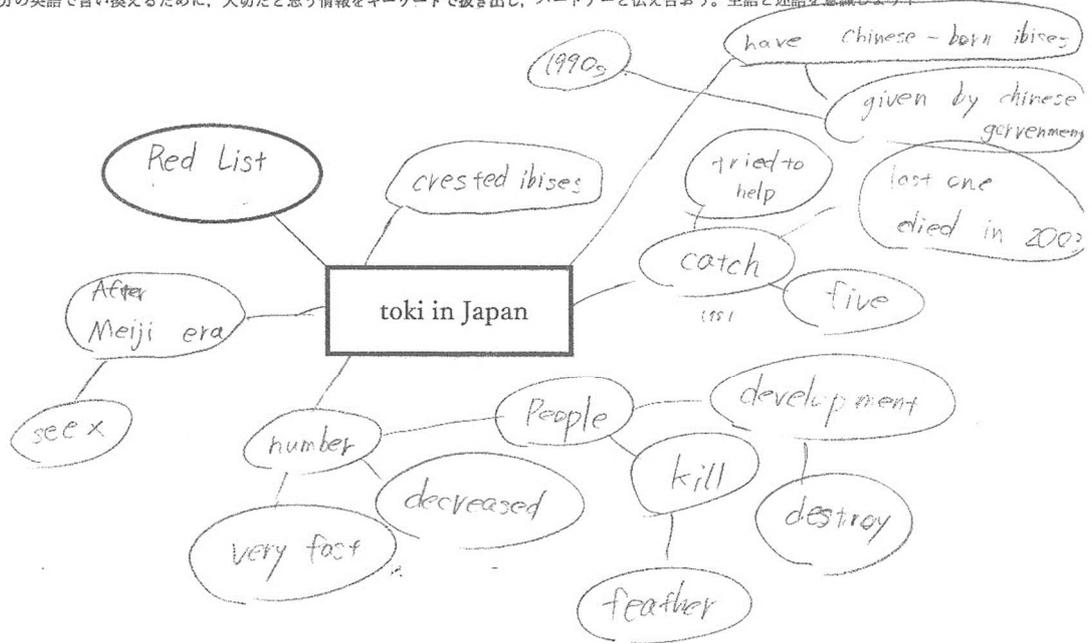
身近な話題だけでなく、社会的な話題についても即興で、かつ根拠や理由を明確にして自分の考えを伝えられる生徒を育てていきたい。既習事項を想起させる、中間評価を活用するなど1時間毎の帯活動や読解活動を充実させ、中学校3年間での英語力の向上につながるように、長期的な視点に立った指導を継続していきたい。

* 1 マッピングシート

Retell the story Unit 3 R&T 1

Class: _____ No: _____ Name: _____

教科書の本文を自分の英語で言い換えるために、大切だと思う情報をキーワードで抜き出し、パートナーと伝え合おう。主語と述語を意識しよう！



Text Reconstruction #Unit 3 R&T 2

リテリングで作成したメモを活用して、本文を再構成しよう。教科書は閉じて、メモと記憶を頼りに、自分の英語で書いてみよう！

OK! Try your best to revise! ^1

【First Draft】

Gorillas ^{are} on the Red List. It is because of human ^{check spelling} ~~hantting~~, logging, and mining. So, gorillas may die ^{out} soon. We ^{check spelling} ~~usally~~ use many special metals. ^{The} Gorillas' habitat has special metals. So, ^{check spelling} ~~peolpe~~ ^{are} mining this metal ^(and destroying the gorillas' habitat) ~~(because gorillas' habitat destroyed)~~. Gorillas ^{have} ~~difficult~~ ^{ies} surviving. We should help the animals survive. ^{nice!}

【Revision】

Gorillas are on the Red List. It is because of human hunting, logging, and mining. So, gorillas may die out soon. We usually use many special metals. The gorillas' habitat has many special metals. So, people are mining this metal and destroying the gorillas' habitat. Gorillas have difficulties surviving. We should help the animals survive.

第2学年A組 英語科学習指導案

指導者 佐藤 康之輔

ALT David K. Ready

1 単元名 NEW HORIZON English Course : Unit 5 Universal Design

2 目標

- 疑問詞+to 不定詞や、主語+be 動詞+形容詞+that を用いた文の形・意味・用法を理解し、それらを含む簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

【知識及び技能】

- ALT からの相談に対して、好みや関心等を踏まえて具体的な理由を付けて自分の考えを伝えたり、説得力のあるアドバイスをしたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- 聞き手や話し手に配慮しながら知っている表現を用いて主体的にアドバイスをしようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
疑問詞+to 不定詞や、主語+be 動詞+形容詞+that を用いた文の形・意味・用法を理解し、それらを含む簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	身に付けてきた表現を使って相手の状況を確認しながら、好みや関心等に応じて自分の考えや経験を述べたり、相手を知るための質問をしたりして、アドバイスをしている。	身に付けてきた表現を主体的に使って、相手の状況を確認しながら、好みや関心等に応じて自分の考えや経験を述べたり、相手を知るための質問をしたりして、アドバイスをしようとしている。

4 生徒の実態 (25名)

全体的に男女の仲は良く、ペアやグループでの会話活動などに意欲的に取り組んでいる学級である。7月に実施した英語の授業アンケートでは、「進んで生徒同士で英語を使おうとしている」という質問事項に対して、「十分にできている」「できている」と答えた生徒が83%であった。一方で、「自分の知らない話題、馴染みのない話題でも、なんとかして英語で会話を継続することができる」という質問事項に対しては「あまりできていない」「できていない」と答えた生徒が72%、「根拠や理由、具体例を付けて自分の考えを伝えることができる」という質問事項に対しては「あまりできていない」「できていない」と答えた生徒の割合が71%と否定的な回答が大部分を占めていた。この調査結果から、友達と英語でコミュニケーションを行う上であまり馴染みのない話題でも、これまでに習った表現を使いながら、互いに分かりやすく伝え合おうとすることや、根拠や理由を添えて自分の考えを伝え、話題を深めていくことに課題があることが分かった。また、生徒の言語活動を観察してみると、習った表現を使って自分の意見や考えを表現することに難儀している生徒も見られた。相手を受け入れようとする姿勢は見られるため、授業では、簡単な表現で自分の伝えたいことを伝える場面や、自分の考えをマッピング等でキーワードを使いながら整理して伝える場面を設定してきた。即興的な場面でも、英語で自分の考えを伝えることができるという自信をもたせたい。

5 単元について

本単元では、昨今日常生活に浸透しつつあるユニバーサルデザインが紹介されている教材である。本文では、メグが住んでいる緑市で開催されたユニバーサルデザイン商品の展示会に参加し、実際にユニバーサルデザインが採用されている商品に触れ、町のあらゆる所にユニバーサルデザインが採用されていることに気付くという設定である。また、ユニバーサルデザインという概念を生み出したロナルド・メイスの生涯について学ぶことができる。生徒にとっても、自分が住む羽後町に目を向け、ユニバーサルデザインが採用されている場所や商品などを探することは大変興味深いものであると考える。これらを通してユニバーサルデザインの考え方への理解を深め、あらゆる人の立場に立ち、全ての人にとって暮らしやすい社会の実現について考えることができる単元である。また言語材料としては、疑問詞+to 不定詞、主語+be 動詞+形容詞+that が扱われている。本単元で、疑問詞+to 不定詞、主語+be 動詞+形容詞+that を学ぶことで、意見や自分の気持ちをより具体的に伝えることができるようになる。

本単元の終末では、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の内容〔思考力、判断力、表現力等〕のエ「話すこと[やり取り]」のア「関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動」として、アメリカに住む ALT の家族が来日するのに一番適している季節を助言する学習活動を位置付けた。この活動では、これまでの秋田県や羽後町での生活経験や、他教科等での学びなどを想起しながら取り組むことができる。また、ALT の困りごとを解決するために、友達や ALT とやり取りをしながら、マッピング等を用いて情報を整理し、アドバイスをするという場面を設定することで、本単元で学習する内容とともに、これまで学んだり身に付けてきたりした表現を活用する機会としたい。

6 指導に当たって

(1) 研究主題との関わり

本校では研究主題を「豊かな関わりの中で、確かな学びを獲得していく生徒の育成」としている。ここでいう「豊かな関わり」とは、次の 4 点を指す。

- ① 自分の考えが相手に伝わるように説明すること
- ② なぜそう考えたのか、理由や根拠を明確にして説明すること
- ③ 他者の考えを聞き、自分の考えを広げたり、深めたり、新たな考えを生み出したりすること
- ④ 互いの考えのよさや違いを理解してそのよさを生かしたり、異なる考えを組み合わせたりすること

この 4 点を受けて、英語科では「自ら考え、意見や気持ちなどを進んで表現し合う生徒の育成」を目標にしている。

生徒が自ら考え、意見や気持ちを進んで表現するために、学習形態と生徒同士のやり取りにおける場面設定を大切にしながら授業に取り組んできた。活動の目的に応じてペアやグループ等学習形態を変え、自分の考えを伝えたり、友達の意見へ質問したりすることで、考えを深め合える場を設けてきた。また、他者の考えを聞き、自分の考えを広げながら、即興で意見交換をする活動も設定している。2 学期からは英語の授業専用の座席を用いている。学級をパートナーとリーダーに分け、互いに協力し合いながら学習を行ってきた。リーダーに選ばれた生徒は責任をもってパートナーとの学習に意欲的に取り組み、自信をもって自分の気持ちを伝えられるようになってきている。パートナーの生徒も、表現方法に行き詰まった際には、リーダーの生徒からのヒントやアドバイスを活用しながら自分の考えを広げることができるようになってきた。分かってもらえるように、知っている言葉で伝えようとしたりする姿勢が見られるようになり、粘り強く会話を継続していく力が育ちつつあると感じている。

(2) 拠点校としての授業改善を推進するために

英語科では定期的に教科部会を行い、各学年・学級における生徒の学習の状況を共有して指導方法の課題を出し合ってきた。その課題を基に指導の改善方法を考え、共通実践事項を挙げながら指導力の向上に努めてきた。

授業改善のため取り組んできたことの一つ目は、帯活動の工夫である。全学年で取り組んでいる帯活動の「スモールトーク」では、ペアで短い時間、一つの話題に絞って英語でやり取りを行うことを継続してきた。話題を設定する際には、教師・生徒間のやり取りの中から生徒の言葉や経験を引き出したり、教科書で学習している内容に関連付けたりすることで、自分と関わりをもてるような場面設定を行い、生徒が自分事として活動に取り組めるように工夫してきた。この活動を継続することにより自由度の高い即興的な場面でも自分の気持ちや考えを伝え合う力を育成できると考えている。また、「スモールトーク」と並行して定型表現の定着と既習表現を想起させることを目的として「弾丸インプット」や「すらすら英会話」を取り入れたことで「スモールトーク」での表現の幅が広がりつつある。「弾丸インプット」は、教科書で使われていた表現を例示する、比較する、理由付けるといった目的別にしてまとめた一覧表である。生徒は表現に行き詰まった際に、この一覧表を活用し、既習表現を思い出しながら会話を継続させようとしている。「すらすら英会話」では、実際の会話の中で、具体例を述べたり、理由を述べたりすることができる。「スモールトーク」では「弾丸インプット」や「すらすら英会話」で学習した内容を想起しながら、会話を継続している生徒が増えてきているように感じる。

二つ目は、自分の考えを広げるための思考ツールの活用である。「スモールトーク」などで相手にアドバイスをしたり、オススメを紹介したりする場面では、マッピングを簡単な形にしたクラゲチャート等を活用し、自分の考えを整理させ、根拠や理由になる部分に着目できるよう継続して指導してきた。

三つ目は、「中間評価」の充実である。「中間評価」では、自分が友達との対話の中でうまく英語で伝えられなかったことを全体で共有し、知っている表現で言い換えを行ってきた。「中間評価」を継続して取り入れたことで、仲間のよい表現に触れ、全体での共有など次の場面で生かそうとしたり、別の話題の時にも、自分の知っている表現で言いたいことを伝えようとしたりする姿勢が高まってきている。

四つ目は、書く場面の確保である。友達と意見交換をして自分の考えを深めた後、ALTに自分の考えを伝えるなどの場面設定を行い、書いて伝える必要感を高めることで、相手意識をもちながら英作文に取り組めるようにしてきた。黒板のマッピング等を活用して、仲間の思いを取り入れさせることで、自分の思考を広げることができる。その思考の変化を書いて残すことができるような指導を継続しているところである。

五つ目は、単元のゴールを見据えて単元計画の構成を行うことである。CAN-DO リストにあるゴールの姿を意識した単元計画の下、自分の考えや経験を伝えられる場面設定を行い、自分事として表現できるように取り組んできた。ゴールを見据えた単元計画を立てることで段階的な指導を行い、単元全体を通してインプットとアウトプットのバランスを考えた単元構成となるよう工夫してきた。

◎ 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標（第2学年）との関わりについて

□日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。【話すこと（やり取り）】

7 全体計画（総時数10時間 本時 10/10）

時	単元のゴールに向けた帯活動	学習のねらい	教師の支援	評価規準 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	「すらすら英会話」①	○疑問詞+to 不定詞の文を使って、相手にやり方を尋ねたり、説明したりすることができる。	○単元のゴールを確認する。 ○疑問詞+to 不定詞の文の意味を捉えることができるように絵や写真を用いて導入する。	○疑問詞+to 不定詞の文の形、意味、用法を理解している。		
2	「弾丸インプット」	○自分が使いたいと思うユニバーサルデザインの商品を、理由を付けて紹介することができる。	○根拠や理由を更に説得力あるものにするために、切り返しの発問をしたり、ペアやグループで意見交換をしたりする場を設ける。		◎自分に必要なユニバーサルデザインを考え理由を明らかにして考えを述べることができる。	◎既習表現を使って、理由を明らかにしながら自分の考えを述べようとしている。
3		○自分が知りたい情報について相手に尋ねたり、自分の知っている情報を相手に教えてたりすることができる。	○ペアで対話を行った後に全体で中間評価の場面を設け、次のペアでの対話がよりよくなるようにする。	○自分が知りたいことについてどのようにしたらよいかを尋ねたり、質問に答えたりすることができる。		
4	「すらすら英会話」②	○ユニバーサルデザインについての説明文を読み、その特徴を捉えて英語でリテリングできる。	○読み取ったことをキーワードでマッピングさせることで、リテリングの際に知っている表現で話しやすくさせる。	○ユニバーサルデザインについての説明文を英語でリテリングすることができる。		
5	「Small Talk」① What can you enjoy in spring?	○ロナルド・メイスについての情報を整理し、リテリングすることができる。	○読み取ったことをキーワードでマッピングさせることで、リテリングの際に知っている表現で話しやすくさせる。	○ユニバーサルデザインについての説明文を英語でリテリングすることができる。		
6	「Small Talk」② What can you enjoy in summer?	○ユニバーサルデザインについての意見を伝え合うことができる。	○概要を把握できるように、難解な表現などは簡単な表現で言い換える。	○知っている表現を使ってユニバーサルデザインについての意見を伝え合うことができる。		
7	「Small Talk」③ What can you enjoy in fall?	○非常口を表す2枚の表示を見比べ、どちらがよいか、その理由を添えて考えを述べることができる。	○根拠や理由を更に説得力あるものにするために、切り返しの発問をする。理由が不透明な場合は、ペアやグループに話題を戻して相談させる。		◎2枚の非常用出口揭示を見比べて、どちらが便利か、理由を添えて自分の考えを述べるることができる。	◎既習表現を使って、理由を明らかにしながら、自分の考えを述べようとしている。
8	「Small Talk」④ What can you enjoy in winter?	○羽後中学校に必要なユニバーサルデザインを紹介し合う。	○公共施設等で用いられている例を紹介しどんな理由から設置されているかを考え、羽後中に必要なことを考えさせる。		◎どのようなユニバーサルデザインが羽後中学校に必要なか、理由を添えて紹介できる。	◎既習表現を使って、理由を明らかにしながら、自分の考えを述べようとしている。
9	「Small Talk」⑤ For Mr. Sato's family, let's think about a happy plan.	○康之輔先生の家族が休日を楽しむために具体的な提案をすることができる。	○自分の経験や知識を理由として語ることで、より具体的な提案になることに気付かせる。 ○中間評価を行い、生徒の困り感を生徒と共に解決することで学びの場とする。		◎何をオススメするかを、既習表現を使って述べるることができる。	◎既習表現を使って、理由を明らかにしながら自分の考えを述べようとしている。

10		<p>○ALT の家族のために、どの季節に来日すべきか既習事項を使って好みや関心等を踏まえて自分の考えや経験を述べるなどしながら、説得力のあるアドバイスをすることができる。</p> <p>○説得力のあるアドバイスをするために、相手の好みや関心等を踏まえ、既習事項を活用して主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>○同じカテゴリーで話題を広げることで、似ている考えや意見を付け足したりでき、より多くの生徒を会話に参加させる。</p> <p>○説得力のあるアドバイスをするために、根拠をはっきりさせるための切り返しの質問を行う。</p>		<p>◎相手の好みや関心等を確認しながら、好みや関心等に応じて具体的な理由を付けることで、説得力のあるアドバイスや自分の考えを伝えている。</p>	<p>◎既習表現を使って相手の好みや関心を知るために質問をしたり、相手の状況に応じてアドバイスをしたりしようとしている。</p>
後日	○ALT の家族の状況を確認しながら、来日すべき季節について、根拠や理由を添えて伝えたり、ALT からの質問に答えたりすることができる。		(パフォーマンステスト)		○相手の状況を確認し、自分の考えを伝えている。	○相手の状況を確認し、自分の考えを伝えようとしている。

8 本時の展開 (10/10)

(1) ねらい

- ALT の家族のために、どの季節に来日すべきか既習事項を使って好みや関心等を踏まえて自分の考えや経験を述べるなどしながら、説得力のあるアドバイスをすることができる。
【思考・判断・表現】
- 説得力のあるアドバイスをするために、相手の好みや関心等を踏まえ、既習事項を活用して主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 学習過程

段階	学習活動と予想される反応	学習への支援と評価	
		JTE	ALT
導入 3分	1 David 先生からの相談を聞く。 ・ David 先生の家族はどんなことに興味があるのかな。 ・ せっかく来日するなら日本を満喫してほしいな。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> David 先生の家族に日本を楽しんでもらえるように、どの季節に来るべきか説得力のあるアドバイスしよう。 </div>	・ ALT の家族に日本でどのような思い出をつくってほしいか考えさせ、日本を満喫するために、ALT の家族のことについて質問する必要感を高める。	・ 生徒に質問させる機会とするため、ここでは簡潔な説明にとどめておく。
展開 40分	3 ALT の家族の好み等を質問する。 ・ どんないことがしたいかな。 ・ 何に興味があるかな。 ・ 桜は好きかな。 4 おすすめの季節について、マッピングを用いて自分の考えを整理する。 ・ 雪が降らないと言っていたから冬を紹介しよう。 ・ 自然が好きだと言っていたから春を紹介して、花見をしてもらおう。 ・ 例を伝えればいいと思ってもらえるな。 5 グループでお互いの考えを共有する。 6 ALT に家族が来日するのにおすすめの季節を紹介する。 <対話例> S1: I think winter is good. ALT: Why do you think so? S1: Because your family didn't see snow in America. I enjoyed making snowman last winter. S2: I think so, too. You can enjoy skiing, too. I'm sure your family will enjoy it. ALT: Good. But I don't know how to ski. S2: I can show you how to ski. ALT: That's a nice idea. S3: I think spring is good. ALT: Why do you think so? S3: Because your father likes flowers. You can enjoy beautiful cherry blossoms in spring. ALT: Thanks. But I don't know where to go? S4: I think you should go to Arcadia Park.	・ ALT への質問で分かったことをキーワードで板書し、マッピングする際の参考になるようにする。 ・ おすすめする理由が分かるようなマッピングになるように支援する。	・ 返答は意図的に必要最小限にとどめ、生徒が ALT に質問することの必要感を高める。
		・ 紹介内容で悩んでいる生徒には、机間指導の際に ALT が自己紹介で話していた内容や、自分の経験でアドバイスできそうなものを想起させる。 ・ 紹介に行き詰まったら中間評価を行い、生徒が言いたくても言えなかった表現を取り上げ、知っている表現で言い換えを行うことで困り感を解消する。 ・ いい表現を紹介し、説得力のあるアドバイスに必要なことを気付かせる。 ・ 同じカテゴリーごとに話題を広げることで、似ている考えや意見を付け足し、多くの生徒が会話に参加できるようにする。	・ 既習表現がうまく活用できるような切り返しの発問を行う。
まとめ 7分	7 おすすめの季節とその理由を英語で書く。 ・ 友達との会話で出た話題も書こう。 8 本時の学習を振り返る。 ・ 説得力のあるアドバイスをするためには、具体例を伝えると分かりやすいな。 ・ 次はすらすら英会話で習った表現を使いながら紹介できるといいな。	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】 ALT に家族の好みや関心等を踏まえて自分の考えや経験を述べるなど、説得力のあるアドバイスをしている。(観察・振り返りシート)</p> </div>	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 説得力のあるアドバイスをするために、ALT に家族の好みや関心等を踏まえて自分の考えや経験を述べたり、アドバイスをしたりしようとしている。(観察・振り返りシート)</p> </div>